

# 北海道浮魚ニュース

令和2(2020)年度10号

2020年7月29日

道総研 函館水産試験場

ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

## ◎第2回日本海スルメイカ長期漁況予報発表される

7月29日、第2回日本海スルメイカ長期漁況予報が発表されたので概要をお知らせします。今回は日本海全域を対象とした漁期後半(8月～12月)の予報です。

なお、この予報は水産研究・教育機構と日本海側道府県水産研究機関が参画し、国立研究開発法人 水産研究・教育機構がとりまとめを行いました。詳細は以下のホームページからご覧になれます。

水産研究・教育機構 (<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/index.html>)

「我が国周辺の水産資源の現状を知るために」 (<http://abchan.fra.go.jp/>)

### 今後の見通し(2020年8月～12月)

対象魚種：スルメイカ

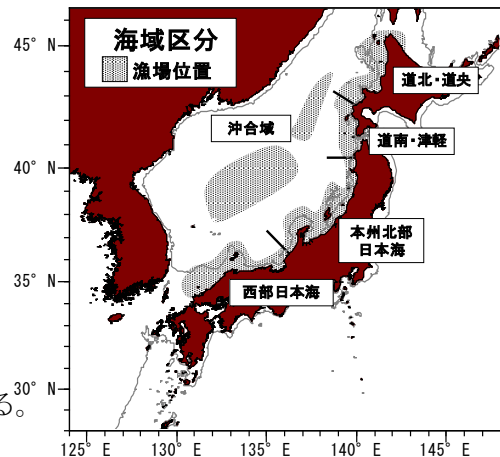
対象海域：日本海(道北・道央、道南・津軽、本州北部日本海、西部日本海、沖合域)

対象漁業：主にいか釣り漁業・小型いか釣り漁業

対象魚群：秋季発生系群、後半は冬季発生系群も含む

- ・今期の日本海全体の来遊量は前年を上回り、近年平均を下回る。
- ・道央・道北では前年を上回り、近年平均を下回る。
- ・道南・津軽では前年および近年平均を上回る。
- ・本州北部日本海は前年同様、夏季に漁場が形成される。
- ・西部日本海では近年同様、漁場が形成されにくい。
- ・沖合域では前年を上回り、近年平均を下回る。

漁場は北海道西沖で8月～11月、大和堆周辺海域で11月～12月に形成される。



※近年は最近5年間(2015～2019年)、前年は2019年を示す。

- ・6月中旬～7月中旬に実施された日本海スルメイカ漁場一斉調査(函館水試調査分は浮魚ニュース第6号を参照)では日本海全体の来遊量の目安となる全調査点の平均CPUE(釣機1台1時間あたりの採取尾数)は14.50尾となり、前年(7.40尾)および近年平均(11.02尾)を上回りました。ただし、本州沿岸域は比較的低密度の点が多かったことに注意する必要があります。
- ・日本海スルメイカ漁場一斉調査での外套背長のモードは17～18cmにあり、前年より大きく、近年平均より小さかった。
- ・日本海全体の漁獲量は5月まで前年並で推移し、6月は前年を上回りました。道北・道央では6月に漁獲が始まり、漁獲量は前年を下回りました。道南・津軽での6月の漁獲量は、前年を上回りました。

(函館水産試験場調査研究部、TEL：0138-83-2893、FAX：0138-83-2849)